

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年3月31日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300450
法人名	株式会社ケイシン
事業所名	グループホーム太陽の家
所在地	鹿児島県鹿屋市今坂町12405-25 (電話) 0994-44-6581
自己評価作成日	令和4年3月9日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人は幼児教育・高齢福祉・障害福祉のつながりあう総合福祉をめざして県内に30施設以上の施設運営をしています。運営者は太陽のごとくわが身を燃やして万物に恵み(愛)をとの思いで{太陽の家}と命名し、相手を思いやる「敬心」の心を大切にしています。職員はその理念の下、入居者様に和顔・愛語・敬いの心で接し、安心と安全を提供し、入居者様に寄り添った質の高い介護を目指しています。また、クリーン作戦と称して、毎月1回、町内の清掃活動を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは鹿屋市中心地から少し離れた今坂地区に同一法人運営の敬心保育園に隣接して平成12年に開設されており、2つのユニットは玄関を中心に対照的に居住空間が設けられている。国道269号線から少し入っているため気になる騒音等はなく、利用者が平穏に暮らせる環境である。近辺には小学校、公園、自動車会社、ガソリンスタンド、チェーンの商業施設、飲食店、個人住宅等が立ち並んで利便性は良い。利用者は日常的に園児の歌や遊戯、遊びの様子を眺めたり会話を楽しんで心を和ませており、運動会等の行事には招待し合い、また、防災訓練も一緒に実施するなど協力関係が築かれている。

開設以来、自治会に加入し、地域の行事や奉仕作業への参加やボランティア等の受け入れ、また、ホームの行事に家族や地域の人の参加を得られている。毎月クリーン作戦(地域の清掃活動)に取り組み、「オレンジの窓」も開設して認知症の相談を受けるなど円滑に交流する関係を築いているが、現在はコロナ禍に配慮してが殆どの交流を自粛している。

管理者及び職員はホームの理念「利用者への限らない愛、利用者の立場に立った介護、地域交流及び自立」を掲げ、法人の名称ケイシン(敬心)の気持ちを基本に利用者がその人らしく生きがいのある平穏な暮らしとなるように、一人一人の思いに寄り添った支援に日々努めている。本年度の介護目標に「和顔、愛語、敬いの心で介護。入居者様に寄り添った介護。安心安全安楽を提供する介護」を設定し、理念に沿った介護に取り組んでいる。

管理者及び職員は、気軽に意見を言い合える信頼と協力関係を築いており、日頃の業務の中や職員会議、申し送り時に積極的に意見や要望を出し合い、検討してサービス向上に取り組んでいる。管理者は日常的にケアに対する助言指導や研修の実施に努め、職員の有給休暇の取得や健康管理、個人的事情にも配慮しながら勤務シフトを作成する等、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域に根差した入居者様主体の共同生活をホームの理念にあげケアの介護目標や理事長の思いとともにホームに掲示し、介護の基本となるように努めている。	理念に「限りない愛、利用者の立場に立った介護、地域交流」を掲げ、年度毎の介護目標と共にホールに掲示し、毎朝唱和も行っており共有している。日常的にケアの振り返りや意見交換して理念に沿った支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板の受け渡しをしている。ケイシンググループ全体で月1回クリーン作戦と称し、町内の清掃活動をしている。	コロナ禍により、いろいろな制限はあるが、通院や訪問美容、周辺の清掃作業を月1回法人全体で取り組む等の交流に努め、「オレンジの窓」も開設して、住民から寄せられる高齢者福祉や認知症ケアに関する相談対応の体制を築いている。コロナ禍の現在、買い物、一時帰宅、体験学習、ボランティアの受け入れ、ホームの行事に家族や地域の人の参加等は自粛している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	鹿屋市全体で取り組んでいる、認知症サポートワーカーの研修を受講し、オレンジの窓として、地域の方が認知症について相談できる窓口を設置している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生員や町内の代表の方々に活動報告やホームの状況を書面で報告し、意見や感想をいただいている。	会議は、家族代表、民生委員、市担当者等が出席して隔月毎に開催しているが、コロナ禍に配慮して現在は書面会議に変更している。利用者の状況やホームの行事、ヒヤリハット等の報告を資料にして委員に送付し、意見や要望等を貰っている。職員は寄せられた内容を職員会議等で検討して運営やケアの向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や市の窓口に行ったときに相談や報告をしている。	市の担当者とは電話やメール、窓口に向いて、介護保険の代理申請や各種制度の申請・報告、感染症予防に関する協議、生活保護受給中の利用者（3人）の処遇に関する連携等を行い、助言や指導を貰うなど、日頃から協力関係を築いている。ズームによる市主催の会合や研修にも積極的に参加して情報を把握し、運営やサービスの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3カ月に1回開催し、言葉の拘束も含め身体拘束につながる事象はないか確認しあっている。	身体拘束については運営規定や重要事項、利用契約書に明記され、法人やホーム独自の研修を計画的に実施して認識を共有している。毎月の職員会議や日頃のケアの中で言葉による拘束も含めて振り返りや意見交換等を行い、尊厳や個性、利用者のペースを大切にされた拘束の無いケアに取り組んでいる。身体拘束廃止委員会も年4回、職員会議の中で開催している。昼間は玄関の施錠は行わず、不適切な言動には、その都度注意や助言し合って改善を図っている。身体拘束や高齢者虐待、ハラスメントを網羅した指針を作成中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	施設内で勉強会をして全職員で理解を深めている。また、不適切ケアについて勉強会を行い、虐待防止に努めている。管理者は職員の心のケアを心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の研修会に参加して理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は十分時間をかけて説明し、重要な事項は特に念入りに説明している。改定時は家族会を開いて説明し、同意を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在は家族会の開催ができないため、便りを通して、運営状況を説明している。又、電話で状況を報告している。	利用者や家族には、日頃から気軽に意見・要望を言いやすい雰囲気づくりに配慮し、玄関には「当日のリーダー」を表示している。利用者の思いは日常の会話や表情、仕草等で汲み取りに努め、家族からは窓越しでの面会や電話、LINE、「お気づき箱」の設置等で、また、「太陽の家だより」で利用者の状況を伝えながら意見、要望を聞き取るように努めている。職員は出された要望等は、職員会議等で検討して改善を図っている。現在、コロナ禍により家族会は中止している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで職員の意見や気づきを出してもらったり、個人面談で運営に関する意見・提案を運営者に挙げている	管理者及び職員は日頃から気軽に意見を言い合える信頼関係の構築に努めている。日頃の業務の中や申し送り、職員会議時に意見や要望を出し合い、人事考課時の個人面談（年2回）や業務に関する悩みや相談等も協議して業務やサービスの向上を図っている。管理者は、日常的に業務に対する助言・指導や研修を実施し、勤務シフトには有給休暇の取得や健康状態、個人的事情等も配慮する等、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎月管理者会議で運営状況や職員の状況を把握し職場環境や条件などの整備を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修を受ける機会は十分に配慮されている。資格取得についてのバックアップも行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者と交流し、情報交換をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談は在宅であれば訪問し、情報収集を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、介護の状況や困っていることなどをお聞きし、一緒に考えながら支援していく姿勢で心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人を交えた会話の中から、必要な支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や料理・季節の行事などの生活面で入居者様から、教えていただく機会を意図的に作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の役割を話し合いケアプランに位置付けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍では外出は自粛しているが、電話などで、家族や知人とのきずなが途切れないように支援している。	利用者や家族、関係者からの情報で利用者毎の馴染みの人や場の情報は把握している。コロナ禍に配慮して、家族や友人との面会は窓越しで実施し、日常的に通院や訪問美容、周辺の散歩等に取り組んでいる。電話やLINE、手紙を取り次ぎ、写真を添付した「太陽の家便り」の送付等、関係の継続に取り組んでいるが、外食、会食、墓参等は控えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者様とお話しができるように、座る場所などを配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な方は退去後も交流を持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動に気を配り思いをくみ取れるように申し送りやミーティングで情報を共有している。	高齢・重度化により発語困難の利用者もいるが、日頃の会話や仕草、独自のサイン等から思いの汲み取りに努め、家族にも確認しながら、その人らしい安全で生きがいのある暮らしになるように努めている。利用者の意向に沿って新聞やテレビの視聴、花の水やり、ボール遊び、脳トレ等の取り組みを体調や残存能力に配慮しながら個別に支援し、それらの成果には評価の言葉を添えて、自己肯定感の習得を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴職業歴等をきき、会話の糸口として話を聞きこれまでの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り・連絡ノートや毎月のミーティングで一人ひとりの状況を確認している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議で入居者様の状況をかくにんして、職員の気づきや意見を聞いてケアプランに反映させている。又、往診時得た医師からの情報もケアプランに組み込んでいる。	利用者や家族の思いを把握し、主治医の指示やモニタリングの結果、職員会議時の意見を基に改善点等を確認し、習慣や楽しみ事にも配慮した介護計画を作成している。通常、計画は半年毎に更新しているが、状態の変化時には計画を実態に沿って変更して改善に取り組んでおり、その都度、家族の理解も得ている。ケアの実施状況はバイタルチェック表や申し送りノート、太陽の家日誌等で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子やケアの結果を個人記録に記載し、職員間で情報共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に必要な日用品の購入や買い物支援、通院の支援を行っている。又、家族が通院に同行する際は送迎することもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の前は、月1回はドライブや公共施設への外出を計画し、また、ボランティアを受け入れていたが、現在はコロナ禍に配慮して控えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を継続の希望のある方は、通院支援や主治医に健康面の情報提供をしている。又同行受診を行っている。	本人・家族が希望する医療機関での治療を継続している。定期的な訪問診療（月2回）や通院が実施され、他科受診は主治医からの紹介状が発行されてから家族と協力して通院している。看護職員4人を中心に、日頃から衛生や健康管理に努め、健康状態は家族にも密に報告して状態の共有を図っており、利用者及び家族の信頼、安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師として兼務しており24時間対応できる体制である。介護職が取らえた情報や気づきを報告してもらい対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	鹿屋市共通の入院時サマリーを活用し状況を伝えている。又、定期的に入院先の相談員に連絡し、入院状況を把握している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ACPについて理解を深め、早期に家族に終末期の在り方について考えていただく機会を設けている。年1回アンケートを取っている。	重度化や看取りの対応指針を整備しており、利用開始時に本人や家族に説明して理解を得ている。入所後は病状に応じて随時、話し合いや意向の確認を行い、可能な限り家族の想いに沿ったケアを看護職員を中心にチーム体制で取り組んでおり、これまで30人以上の看取りを実施している。看取り終了後は、振り返りや意見交換を行って、スキルアップや不安感の軽減を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のフローチャートを作成している。ミーティングなどで再確認している。救命講習を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>保育園との合同訓練や自主訓練を行っている。</p>	<p>夜間発生も想定した火災を主とした災害訓練を年2回（コロナ禍で消防署立ち合いは得られていない）隣接の保育園と合同で実施し、消火器や自動通報装置等の取扱いも研修している。日常的に避難経路や消火器の設置場所等の確認を行い、各居室のネームプレートには避難を確認できる工夫をしている。3日分以上の食料や飲料水を備蓄し、ヘルメットやカセットコンロ、ラジオ、懐中電灯等も備えており、自動通報装置には隣の住民も組み入れるなど、災害時の協力体制も築いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切ケアについて自施設で研修会を実施している。又、敬いの心で接することを介護目標に掲げ、毎日確認している。	人格の尊重やプライバシーの確保、守秘義務については運営規定等に明記され、研修の実施や日頃の業務の中での意見交換等で認識を共有している。常に「敬いの心」でケアすることを意識しており、入室時にはノックや声掛けを励行し、排泄や入浴時のケアは羞恥心にも配慮して適切な言葉やトーンに努めている。管理者は不適切なケアに対しては、その都度、助言等を行なって気付きを促し改善を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の気持や権利を守る事を重視し、声掛けや対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を配慮しながら入居者様の生活リズムに合わせて食事や入浴、排泄介助、昼寝レクリエーションなどを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	訪問散髪を2～3か月に1回お願いしている。また、自分の行きつけの美容院の支援をしている衣服が食事などで汚れたら随時更衣している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやお膳拭きなどできる方はお願いしている。季節の行事に合わせた献立にして食事を楽しめるようにしている。	食事は利用者にとって一番の楽しみであるので、日頃から好みや栄養バランス、形態、季節感、盛り付け等に配慮している。朝食と昼食はホームで調理し夕食は配食サービスを利用している。おせちや節句、敬老会などの行事はホームで調理して昼食で対応し、誕生日のリクエスト食や利用者とのどら焼き作り、寿司の出前、弁当購入、流しラーメン等工夫し、利用者も食材の皮むきやお盆拭き等を楽しみながら行っている。コロナ禍に配慮して外食や家族との会食、弁当持参の外食等は控えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分量や食事量を確認している。お茶を好んで飲まれない方は、スポーツ飲料を提供したりしている。ヤクルトを家で飲んでいた方は、週1回ヤクルト屋さんが販売に来る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状況に合わせた口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿チェック表を作り、排尿パターンを把握し、可能な限りトイレ誘導を行っている。	各利用者の身体の状態や排泄パターンを把握し、プランに反映させて改善を図っており、昼間は声掛けや付き添い等で可能な限り、トイレでの排泄を支援して排泄機能の維持に努めており、介護用品の減少という改善も見られている。介護用品やケアの方法を工夫し、便秘の予防に排便習慣への支援や植物繊維の多い食材、水分量、運動等に配慮し、主治医にも相談している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便習慣をつけるように毎朝トイレに座っていただいたり、個々にあった便秘対策を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入居者様のその日の体調に合わせて入浴を支援している。入浴の拒否のある方は、タイミングを考えたり、こえかけを工夫して誘導している。	利用者の健康状態や意向を確認しながら基本週3回の入浴を、清拭への変更も取り入れながら支援している。時間の変更や温度等は利用者の意向に沿って柔軟に対応し、利用者のペースで楽しんで貰っている。重度化した利用者にはリフト（2人）や特殊浴（9人）で対応しており、入浴後は保湿軟膏の塗布や水分補給を支援している。入浴をためらう利用者には、時間の変更や声掛けを工夫して本人の意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や就寝時間はその方のペースにあわせている。また個々の状況にあわせて昼寝を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を整理し、職員がいつでも確認できるようにしている。変更があった場合は、申し送りノートに記載し伝達している。服薬時はダブルチェックしている。また、かかりつけ薬局がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野でその方の力を発揮できそうなことをお願いしている。経験や知恵を発揮出来る場面を作る。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は控えている。	心身の状態や天候等に配慮しながら日常的に園庭やホーム周辺の散歩、保育園児との交流を楽しんでいる。感染予防対策に配慮しながら通院やドライブによる季節の花見等の外出に取り組んでいる。地域のイベントが中止されホームの外出計画も十分には実施できないため、日々のレクリエーション（ボール遊び、ゲーム、カーリング、脳トレ、テレビ視聴等）を工夫して、リフレッシュを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物ツアーを企画し、近くのスーパーに行って本人が支払うことを支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人の希望があった場合は家族に電話をできるようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングの天井が高く採光が得られる。壁画を季節ごとに皆で作り替え、季節感が感じられるように工夫している。</p>	<p>利用者が昼間の殆どを過ごすホールは、天井が高く開放的で明るく余裕あるスペースが確保されている。テーブルやソファ、テレビ等が利便性や利用者間の交流状況に配慮して置かれ、利用者の作品や行事の写真、季節感のある壁画、活花等が飾られ、厨房からは調理の音や臭いも伝わり和やかな雰囲気である。また、テラスにはベンチが置かれ、プランターの花や車の往来も眺められている。清掃や空調、整理整頓に努め、手指消毒剤も設置されており、不快に感じる臭い等もなく、利用者は四季を感じながら穏やかな日々を過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールのテーブルやソファの配置を考え会話できたり、ソファで寛げるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>その方に応じてベッドやタンスの位置を考え、移動しやすい空間にしている。</p>	<p>居室はフローリングの床に腰高窓の構造で明るく余裕ある広さが確保され、電動ベッド、エアコン、クローゼット、洗面台が備えられている。利用者は自宅で愛用していた寝具やテレビや家族写真、小家具等を持ち込み、利便性を考慮して配置しており、自身の作品や長寿祝いで頂いた品物等も飾って、家庭同様に落ち着いた雰囲気の居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや居室はわかりやすく目印をつけたり、トイレは矢印を着けたりしている。状況に合わせて洗濯物たたみ台所仕事をお願いしている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない